



社会・環境報告書

2008



トップメッセージ



誠実な事業活動を通じて
社会に貢献するとともに、
社会から信頼される企業で
あり続けたい。

世界の人々の目とからだの 健康維持・増進に貢献するために

参天製薬は、医療用医薬品および一般用医薬品の研究・開発・製造・販売に一貫して携わる企業として、中でも眼科とリウマチ／骨・関節疾患領域に特化した事業を展開しています。また、売上高の約80%以上を占める医療用眼科薬は、幅広い治療領域の品揃えにより、国内ではマーケットリーダーの地位を確保しています。

当社は、基本理念にある「目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それによって参天ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への寄与を行う。」ことを常に意識して、独自性のある製品をグローバルにお届けする「世界の参天」をめざしています。世界中の眼病やリウマチで苦しむ人々のQOL (Quality of Life: 生活の質) の向上と、人々が健康に暮らせる社会づくりに貢献することを使命と考えて、その使命を着実に果たすためにも、誠実な事業活動を行うとともに、しっかりとしたコーポレート・ガバナンス体制を構築・堅持しています。

社会から信頼される企業であるために

企業が持続的に成長するためには、企業としての責任をしっかりと果たし、情報開示をはじめとして、すべてのステークホルダーとのコミュニケーションを図り、その要請に応えていくことが不可欠であると考えています。特に、当社は医療の一翼を担う企業であり、広く社会から信頼を得る必要があります。

そのために、当社は、全従業員が「参天企業倫理綱領」に基づく共通の高い倫理観を持って、国内外を問わず法令、国際ルールおよびその精神を遵守し、社会的良識のもと誠実に行動することをめざしています。

また、企業市民としての役割をしっかりと果たし、社会との信頼関係を深めることにも注力しており、お客様や社会からの期待を敏感に感じ取り、応えられる体制の強化に努めるとともに、当社で働く従業員一人ひとりの人権と個性を尊重し、ワーク・ライフ・バランスにも配慮した健康的で働きやすい安全・清潔かつ快適な職場環境の構築・維持に努めています。さらに、大学と連携した講座の開設や眼科医を養成・サポートする研修基金の設置など、眼病治療の発展に寄与する活動や、環境美化をはじめとする地域に密着した活動やイベントへの参加、自然災害の被災者への支援などを実施しています。

美しい地球を次世代に引き継ぐために

水や森林などの地球資源を守り、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐことは人類にとって大きなテーマとなっており、私たちはその取り組みを強化しなければならないと考えています。当社は、「美しい地球を次世代に引き継ぐ」という環境基本方針のもと、グループ会社全体で環境負荷の低減に向けた取り組みに努め、従業員一人ひとりの自律的な活動を通じて、環境保全や循環型社会の実現に貢献したいと考えています。

そのため、CO₂排出量の削減につながる省エネルギー対策の実施や、廃棄物を限りなくゼロに近づける取り組み、グリーン購入の推進、化学物質の使用量の正確な把握と適正な管理を継続していきます。また、製品のライフサイクル全体を考えた計画的な環境対策として、原材料などを対象としたグリーン調達ガイドラインを作成しグリーン調達に対して調達先の理解を求めています。今後は、さらなるCO₂排出量の削減策を検討・実施するとともに、調達先との協働関係のもと、環境に配慮したものづくりを進めたいと考えています。

当社はこれからも「世界の参天」を目標に、「社会から信頼される企業」であるとともに「美しい地球を次世代に引き継ぐ」ことができるよう、役員および従業員一人ひとりが社会・環境活動の意義をさらに深く理解し、より実効性のある社会・環境活動を展開していきます。そのため、コンプライアンス・人権啓発・環境・労働安全衛生に関する体制を強化していきます。

当社の社会・環境活動をまとめた本報告書を、参天製薬と関わる多くの方々にお読みいただき、当社の活動をご理解いただくとともに、忌憚のないご意見を賜うことができれば幸いです。

2008年10月

代表取締役社長兼CEO

黒川 明

編集方針

参天製薬は、2002年度から「環境報告書」の発行を始めました。企業の情報をより幅広く開示していくため、2005年度から「社会・環境報告書」と名称を改め、環境保全活動だけでなく、企業倫理や雇用、製品の安全性などの社会的な取り組みについて掲載しています。また海外のグループ会社の活動についても一部を紹介しています。

なお、本報告書は、環境省の「環境報告ガイドライン」に基づいて作成し、GRI(Global Reporting Initiative)の「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」も参考にしています。

※数値データについては、四捨五入の関係で合計が合わない場合があります。

対象範囲

参天製薬株式会社の全事業所を基本として、一部参天グループの株式会社クレール、サンテン・オイ、サンテン・インクを含んでいます。

なお、30ページに記載している売上高・利益は、連結業績の数値を用いています。

対象期間

2007年4月1日～2008年3月31日
(一部2008年4月1日以降も含む)

次回発行予定

2009年9月に発行する予定です。

目次

■ トップメッセージ	>> 1
■ 社会・環境担当役員インタビュー	>> 3
■ 基本理念と参天企業倫理綱領	>> 5
■ CSR推進体制	>> 7
■ 社会から信頼される企業であるために	
社会から信頼されるために	>> 8
社会	>> 9
お客様	>> 11
株主の皆さま	>> 14
お取引先	>> 14
従業員	>> 15
■ 美しい地球を次世代に引き継ぐために	
環境方針	>> 18
環境目標と実績	>> 19
環境負荷の全体像	>> 20
環境マネジメントシステム	>> 21
環境関連法規制の遵守	>> 21
省エネルギー・地球温暖化防止	>> 22
省資源	>> 22
廃棄物削減	>> 23
化学物質管理	>> 24
グリーン調達・購入	>> 25
環境教育・啓発活動	>> 25
環境会計	>> 26
■ サイトデータ	
本社地区／能登工場／滋賀工場	>> 27
奈良研究開発センター／サンテン・オイ／サンテン・インク	>> 28
■ 参天製薬について	>> 29

2007年度の社会・環境活動の総括と今後の取り組み



社会・環境活動の推進は、
事業活動に組み込まれたものとして、
従業員一人ひとりが自ら考えて
実行していくことが重要。

取締役 社会・環境担当 和賀 克公

社会・環境活動に対する基本的な考えをお聞かせください

企業の社会・環境活動を推進するため重要なことは、そこで働く従業員一人ひとりが社会・環境活動に関する意識を持つことです。「肝心な事は何かを深く考え、どうするか明確に決め迅速に実行する。目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それによって参天ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人々を中心として社会への寄与を行う。」が、基本理念にあります。この基本理念を事業活動の機軸とし持続的発展をすることが当社の社会・環境活動そのもので、基本理念を正しく理解し、常に意識することができるよう

社内風土や体制を整えたいと考えています。

当社の社会・環境活動は、コンプライアンス、人権啓発、環境および労働安全衛生の3つを柱としています。2007年度には、社会・環境活動の推進体制を事業活動にきちんと組み込まれた形で推進できる体制とするために、コンプライアンス、人権啓発、環境および労働安全衛生に関する3つの委員会を「CSR委員会」として統合しました。CSR委員会は、各事業部・本部のトップで構成しているため、CSR委員会での決定事項は、そのまま事業活動として推進できると考えています。

社会から信頼される企業であるために、どのような活動に取り組みましたか？

医薬品メーカーである当社にとっては、「安全性・有効性・高品質」が保証された製品を社会へ供給することが、社会との信頼関係のためには最も重要なことと考えています。当社は、医薬品に関する法的な品質基準の遵守は当然のこと、当社独自の「品質基本方針」を策定し、より高い品質を保証できる体制を確立・維持しています。また、医薬品という生命に関わる製品を取り扱っている当社の役員・従業員には、高い倫理観を持って行動することが求められます。そのため、1999年に倫理的判断に基づいた行動をとるための規範として「参天企業倫理綱領」を制定し、その浸透を図っています。2007年度は、全従業員に向けた「コンプライアンス・レター」を定期的に発行し、「参天企業倫理綱領」の浸透と周知徹底に努めました。このほか、医学薬学の発展への貢献活動や自然災害復

旧への支援、地域の美化活動など、企業市民としての活動を継続しています。

当社は働きやすい職場づくりの推進に加えて、従業員のワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいます。働きやすい職場づくりに向けては、安全・清潔かつ快適な職場環境の維持に努めるとともに、従業員の心と体の健康をサポートする体制を整えています。また、差別やハラスメントのないよう、人権啓発活動などを継続的に行い、人権問題の理解浸透を図っています。従業員のワーク・ライフ・バランスの推進では、子育てをしながら働く従業員を支援するために、次世代育成支援に積極的に取り組んでいます。2007年10月には次世代育成支援認定事業主となり、2008年4月から育児短時間勤務制度を導入しました。

美しい地球を次世代に引き継ぐために、どのような活動に取り組みましたか？

地球環境保全については、京都議定書の第一約束期間が始まりました。2008年7月に開催された洞爺湖サミットにおいても地球環境問題が取り上げられているように国際的な関心が高いなか、当社においては、1998年に策定した環境基本方針のもと環境マネジメントシステムを運用し、地球温暖化防止対策をはじめ、廃棄物の削減、グリーン購入の推進、化学物質の適正管理などの環境対策を継続しています。

2007年度は、省エネルギーおよびCO₂排出量の低減策の一環として、おもに滋賀工場および大阪工場のボイラー設備の老朽化による更新を検討してきました。その結果、2008年8月に滋賀工場では、重油から天然ガスへエネルギー転換し、ガス炊きボイラーに更新しました。今回の更新により、滋賀工場では約16%のCO₂排出量の削減が見込まれます。大阪工場でも、2008年5月に高効率ボイラー

への更新に合わせて、設置台数の見直しを行いました。今後、生産数量の増加に伴い、CO₂排出量の増加が懸念されるものの、両工場のボイラー更新は、2008年以降において省エネルギーや、CO₂排出量の低減に寄与すると期待しています。

海外では、フィンランドにある子会社サンテン・オイで、環境と労働安全衛生マネジメントシステムの構築を行い、2008年9月にISO14001^{*}の認証を取得することができました。これにより、参天グループの主要な工場は、すべてISO14001の認証を取得したことになります。

* 1996年に国際標準化機構 (ISO:International Organization for Standardization) によって制定された環境マネジメントに関する国際統一規格

今後の課題や対応について、どのようにお考えですか？

社会・環境活動について、コンプライアンス、人権啓発、環境および労働安全衛生を柱として取り組んできましたが、これからは社会・環境活動をより広く捉え、事業活動と一体で取り組んでいく必要があると考えています。

当社は、医薬品という生命に関わる製品を取り扱っていることから、新型インフルエンザの流行や、大規模地震などの自然災害が発生した場合に、事業を継続させる『BCP (Business Continuity Plan:事業継続計画)』の策定が、急務と認識しています。

環境活動においては、国内だけでなく海外でのさらなる推進が、課題としてあげられます。2004年から海外での活動に着手し、サンテン・オイがISO14001の認証を取得するなど、徐々に成果は出つつあります。当面の課題

としては、2008年に操業を開始した中国の蘇州工場で、環境マネジメントシステムを構築することがあげられます。

労働安全衛生では、働きやすい職場づくりの促進に向けて、適切な労働時間管理や、職場におけるメンタルヘルスへの対応などへの取り組みを強化します。

コンプライアンスにおける「参天企業倫理綱領」のさらなる浸透促進と、人権啓発活動を通じた人権尊重への理解促進は、今後も継続して取り組みます。

これらの課題解決を通じて社会の要請に応えるために、社会・お客様・株主の皆さま・お取引先・従業員などのステークホルダーからの声に耳を傾け、そのコミュニケーションを通じて、社会と共存できる企業像を追及していきたいと考えています。

基本理念と参天企業倫理綱領

基本理念

「天機に参与する」※1

肝心な事は何かを深く考え※2、どうするか明確に決め迅速に実行する。

目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それによって参天ならではの知恵と組織的能力を培い、患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への寄与を行う。

参天企業倫理綱領

わたしたちが社会的良識をもって健全な事業活動を行うことにより利益を確保し、その過程で企業市民としての義務と責任を果たし、社会との信頼関係を深めるために参天企業倫理綱領を制定しています。

わたしたちは企業行動宣言と企業行動規範から構成された「参天企業倫理綱領」に従って意思決定し、行動していきます。

企業行動宣言

わたしたちが事業活動を進めて行く上での基本的考え方を顧客・社会／株主／取引先／従業員に対して表明するものです。

企業行動規範

わたしたちが事業活動を行う際の判断の方向性を示すもので、わたしたちが取るべき行動のガイドラインです。

※1 中国古典「四書五経」を原典としており、聖人が、「天」すなわち万物の秩序・原理と、「地」すなわち人間社会の調和を助けることを意味しています。

※2 「肝心なことは何かを深く考える」とは、全体像をしっかりと持って（部分だけを考えるのではなく、部分を考察するのに全体の中での位置付けを理解したうえで）考えること。および、基本となる情報とデータをきちんと考えて、深く掘り下げることを意味する。

■ 企業行動宣言

社会との共生

わたしたちはすべての法令およびその精神を遵守し、自然保護と地球環境保全に積極的に取り組みながら、地域社会と協力し、国際社会との調和を図り、世界の医学・薬学の進歩に貢献します。

顧客との信頼

わたしたちは常に、顧客である医療関係者、生活者、患者さんおよび患者さんを愛する人たちの立場で考え、新しく生み出した画期的な製品とサービスを通じて、「ひととひとみのすやかな未来」を実現できるよう努力し、顧客との厚い信頼関係を造ります。



株主との発展

わたしたちは、継続的な付加価値創造によって生み出した適正な利益を蓄積し、株主と共有し、積極的かつ公正に情報を開示することによって、株主の理解を得ながらともに発展するように努めます。

取引先との共栄

わたしたちはそれぞれが自律し、自らの役割と責任を果たし、相互進化を目指せる取引先と良きパートナーとして尊敬し合い、相互の繁栄に努めます。

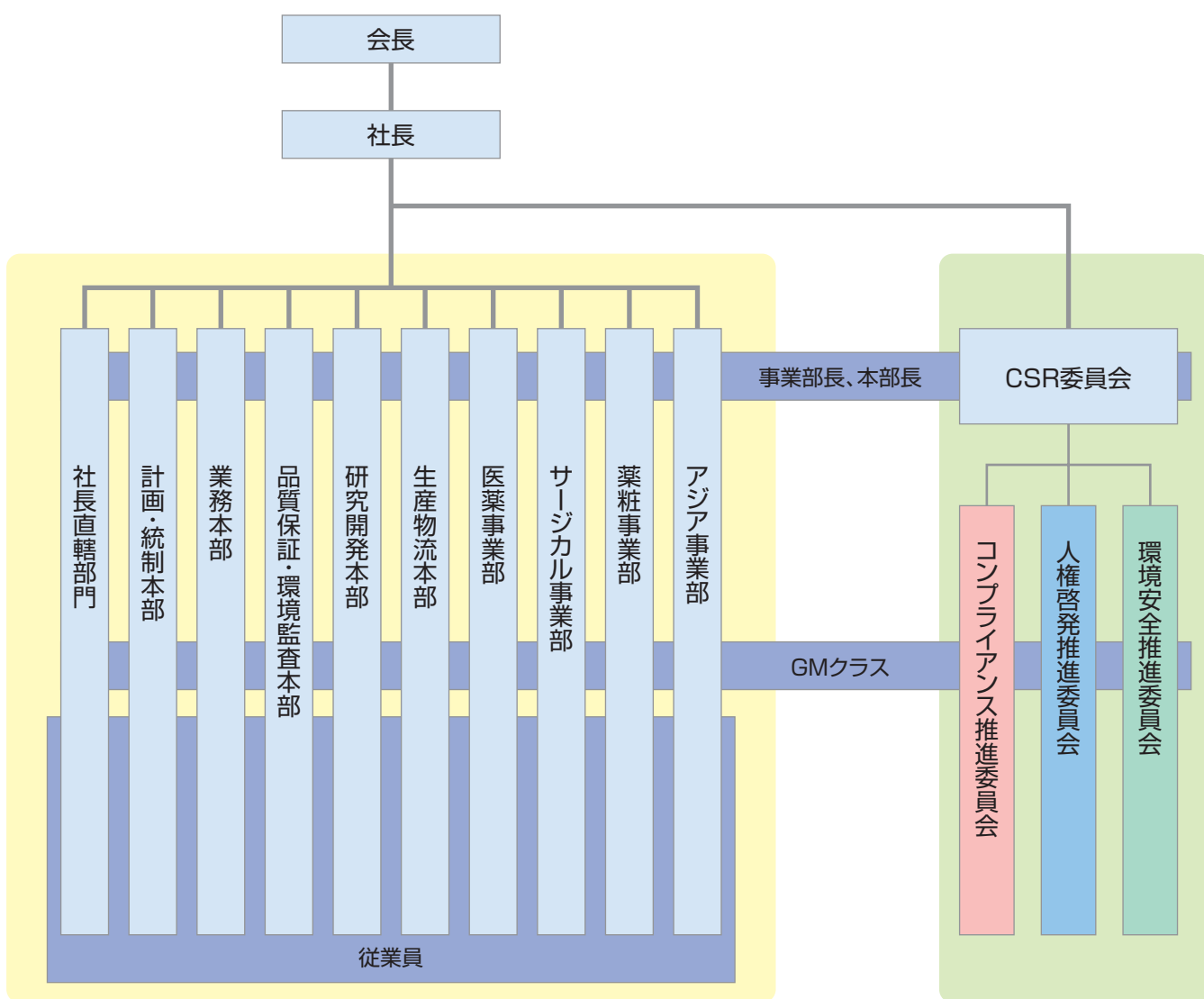
従業員との成長

わたしたちは従業員一人ひとりの人権と個性を尊重し合い、互いに切磋琢磨することによりともに成長し、自律とゆとりと豊かさの充実を目指します。

CSR推進体制

参天製薬は、企業価値の最大化には、コーポレート・ガバナンスの強化が不可欠と認識し、その一環として、CSRの推進を着実に実践するために、「CSR委員会」を設置しています。「CSR委員会」は、社会・環境担当役員を委員長とし、各事業部長・本部長で構成し、コンプライアンス、人権啓発、環境および安全衛生を中心として法令遵守から社会貢献まで多岐にわたる当社のCSRに関する重要事項を決定しています。「CSR委員会」のもと、「コンプライアンス推進委員会」「人権啓発推進委員会」「環境安全推進委員会」の各推進委員会があります。各推進委員会は、CSR委員会で決定した方針などを、各部門の特性や実情に応じて適切に実践できるように、各事業部・本部のGM（グループマネージャー）クラスで構成しています。

このような体制を構築することにより、CSRの推進を事業活動と一体化し、全役員・従業員が高い倫理観を持ちながら、常に取り組んでいます。



2008年9月30日現在



社会から信頼される企業であるために

医薬品を提供する当社にとって、社会との信頼関係を深めることは、事業の発展に不可欠と考えています。法令およびその精神を遵守するのは当然のこと、私たちと関わる人々とのコミュニケーションを推進し、企業市民としての役割をしっかりと果たすことで社会から信頼される企業でありたいと考えています。

社会から信頼されるために

「参天企業倫理綱領」に基づき意思決定し、行動します。

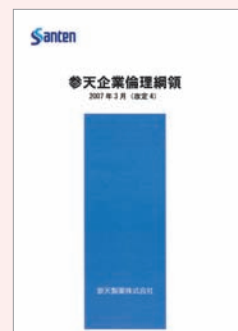
■ 参天企業倫理綱領

参天製薬は、社会的良識を持って健全な事業活動を行い、社会との信頼関係を深めるため、「参天企業倫理綱領」を定めています。本倫理綱領は、「企業行動宣言」と「企業行動規範」からなり、「企業行動宣言」は事業活動を進めて行くうえでの当社の基本的考え方を表明しています。また、「企業行動規範」は当社の役員・従業員が事業活動を行う際の判断の方向性を示すもので、当社の役員・従業員が取るべき行動のガイドラインです。

当社では、この「参天企業倫理綱領」に基づき、役員・従業員一人ひとりが、共通の認識を持って意思決定し、日々の事業活動に取り組んでいます。

● 構成

トップからのメッセージ
企業倫理綱領制定の背景
企業倫理綱領制定の目的
事業活動と企業倫理綱領
企業行動宣言
企業行動規範
推進体制と役割機能
相談・連絡先とヘルプライン



「参天企業倫理綱領」に基づき、医学・薬学の進歩に貢献します。

■ 法令およびその精神の遵守

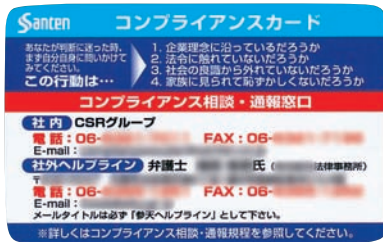
コンプライアンス推進体制

参天製薬は高い倫理観を持って事業活動を行うことが重要と考え、法令や社会規範に反することのないようにコンプライアンス体制を整備しています。

当社では、コンプライアンス推進専任部署を設けるとともに、CSR委員会のもと、「コンプライアンス推進委員会」を設置しています。「コンプライアンス推進委員会」は、部門ごとのコンプライアンスリーダー（各事業部・本部のグループマネージャークラス）で構成しており、コンプライアンスの方針や実行計画、違反への対応策、再発防止策などを策定し、実施しています。

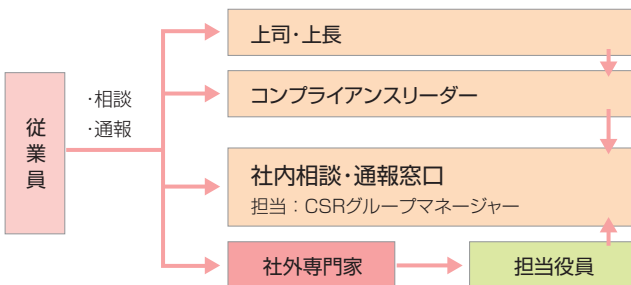
社内外に相談・通報窓口

参天製薬は、コンプライアンス上疑義のある行為について、従業員が相談・通報できる窓口を整備しています。通常のマネジメント（上司・上長・コンプライアンスリーダー）を通じた相談・通報だけでなく、社内窓口として「CSRグループ」、社外窓口として、弁護士に直接相談・通報できる窓口も設けており、従業員は相談・通報しやすい窓口を選ぶことができます。また、相談・通報窓口を利用しやすいよう、全従業員に、窓口の電話番号やメールアドレスなどを掲載した「コンプライアンスカード」を配付しています。なお、相談者・通報者のプライバシーは全面的に保護され、不利益を被らないよう万全の配慮を行っています。



コンプライアンスカード

■ 相談・通報の流れ



コンプライアンスの啓発と浸透

参天製薬は、社会的良識を持って健全な事業活動を行い、社会との信頼関係を深めるため、1999年12月に「参天企業倫理綱領」を制定し、その浸透を図ってきました。また、コンプライアンスを全役員および従業員に浸透させるため、階層別・部門別研修や、eラーニングによる研修を継続的に行っています。2007年度は、コンプライアンス委員長からのメッセージとして、「コンプライアンス・レター」を定期的に発行し、「参天企業倫理綱領」の理解浸透に努めました。

● 「コンプライアンス・レター」各号の内容

創刊号（2007年4月）

- ・コンプライアンス委員長から従業員へのメッセージ
- ・企業倫理綱領は意思決定と行動する際の基準
- ・法令およびその精神の遵守
- ・地球環境保全への貢献

第2号（2007年7月）

- ・人としての良識

第3号（2007年12月）

- ・偽りのない行動が大切

号外第1号（2008年3月）

- ・インサイダー取引

第4号（2008年4月）

- ・人間性を考えるには、「性善説」or「性悪説」 それとも・・・

号外第2号（2008年5月）

- ・CSR（企業の社会的責任）



コンプライアンス・レター

各種規程の見直し

参天製薬は、健全な事業活動を行うために、「参天企業倫理綱領」や、公正競争規約など医薬品業界の関連規範を遵守することに加えて、社会からの誤解や批判を招かないことを目的とするさまざまな規程やガイドラインを作成し、事業活動で常にこれらガイドラインに則った行動の実践に努めています。このような規程やガイドラインは、世の中の情勢の変化に合わせて、随時見直しを実施しており、常に関連規範を遵守しています。

■ 企業市民としての役割

医学・薬学の発展への貢献

参天製薬では、将来の先端科学技術を担う人材を育成するために、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学と連携して、2004年度から「機能高分子科学講座」を開設し、当社の奈良研究開発センターの研究員3名が学生を指導しています。本講座は高度な研究水準を持つ企業と大学が連携して教育・研究を行うもので、学生は当社の施設を利用して研究活動を行うことができます。

発展途上国での失明防止などに取り組むNPO法人ヘレン・ケラー・インターナショナルや、角膜移植の普及に取り組む財団法人日本アイバンク協会、失明予防の活動を展開する財団法人日本失明予防協会などの福祉団体への寄付を、継続的に行っています。

海外においても、アジア諸国の医療水準向上を目的に優れた眼科医の養成をサポートするために、奨学金制度や研修基金を設けて、継続的な支援を行っています。中国では、1997年から眼科医を対象とした「中国眼科医奨学金制度」を設け、韓国では、大韓民国眼科学会と共同で、眼科研修基金を設置しています。

中国眼科医療の発展に貢献

2007年8月に「参天製薬（中国）有限公司」の蘇州工場が、中国江蘇省蘇州市に竣工しました。新工場には日本国内の工場と同レベルの無菌無塵環境で、高品質の点眼剤を製造する設備を導入しています。加えて、現地スタッフへの技術指導を徹底することにより、これまでの輸出品と同じ高品質な製品を安定的に供給できる体制を整えることで、中国眼科医療の発展に寄与していきます。また、国内・国外を問わず高い倫理観を持って事業活動を行うことも重要であると考えています。医療関係者や患者さんをはじめとする多くのステークホルダーに信頼され、継続して成長する企業となるために、法令や社会規範に反することのないよう、中国現地法人の全従業員に対して、基本理念やコンプライアンスなどの浸透に注力しています。



参天製薬（中国）有限公司 蘇州工場

社会への貢献

けいはんな学術研究都市・高山地区に立地する奈良研究開発センターでは、地域との交流を図るため、同じ地域の日本電気株式会社関西研究所、国立奈良先端科学技術大学院大学と共同で、年に1回「高山サイエンスタウンフェスティバル」を開催しています。参天製薬は、約400人の来訪者の方々を対象に、目の健康相談や当社の紹介展示などを行っています。また、高山地区サイエンスプラザ内で毎月開催される、けいはんなプチコンサートにも協賛しています。



このほか、地域の美化に貢献するため、本社地区では、事業所周辺の清掃を年2回実施し、滋賀工場では工場団地の清掃を、能登工場では千里浜海岸や工場の近くにある白虎山公園の清掃を実施しています。奈良研究開発センターでは、奈良県生駒市の富雄川周辺の自治会を中心に展開している「富雄川クリーンキャンペーン」に2002年から参加し、草抜きや種まきなどの作業を行って近隣の方々との親睦を深めながら、環境改善にも貢献しています。2007年度は15回実施し延べ455名が参加しました。



地域清掃



コスモス育成（富雄川クリーンキャンペーン）

災害などへの義援金

参天製薬では、2007年7月に発生した新潟県中越沖地震で被災された方々の復興を願い500万円の義援金を寄付しました。

また、2007年3月に主力工場の能登工場がある石川県で発生した能登半島地震において、1,000万円の義援金を寄付しました。これに対し、

2008年4月に石川県知事から感謝状をいただくとともに、内閣総理大臣から、紺綬褒状を受章しました。



紺綬褒状

お客様との厚い信頼関係をつくります。

■ 有効性・安全性に優れた製品の企画、研究・開発、製造、提供

製造と品質管理

参天製薬は、緑内障や角膜疾患をはじめとした、あらゆる眼科疾患および、リウマチに対する優れた医薬品を提供することで、患者さんのQOL (Quality of Life:生活の質) 向上に努めています。

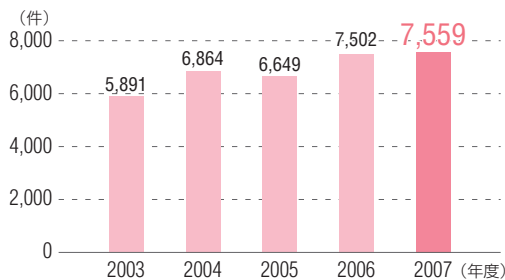
「適用される法規、規格基準を満足し、最新の科学技術を応用して消費者に信頼されるより高い品質、有効性および安全性を確保した医薬品・医療機器とサービスを提供し、社会に貢献する」という独自の品質基本方針を策定し、海外のグループ会社と連携をとって、品質保証体制を確立しています。なかでも眼科薬は「無菌化」が重要な課題となっています。そのため当社は、製品だけでなく製造環境および製造用水に対しても無菌性を保証する十分な試験・検査を行い、高レベルで維持された無菌環境管理のもとで生産しています。さらに、原材料の入庫から製造、包装、出荷にいたる全工程をコンピュータで管理し、原料・材料のトレーサビリティ[※]や生産管理および品質管理の信頼性を確保しています。

※流通における生産者情報等の伝達のための仕組み

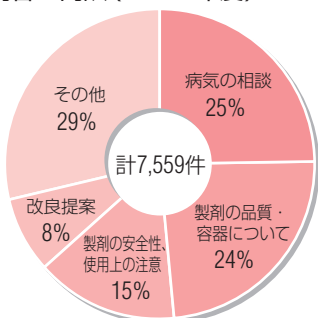
お客様相談室の活動

参天製薬は、お客様からのご相談を一元的に受けるため、1996年に「お客様相談室」を設置しました。電話や手紙、メールなどの手段により、2007年度は7,559件のご相談をいただきました。その内容は、病気の相談に関するもの25%、医療用医薬品・一般用医薬品の製剤の品質・容器に関するもの24%、製剤の安全性・使用上の注意に関するもの15%となっています。

■ お客様相談室へのご相談件数



■ ご相談内容の内訳 (2007年度)



貴重な声を活かし、製品・サービスを改善

参天製薬は、お客様から寄せられたご相談に対して誠実に対応するとともに、必要に応じて薬の特徴や副作用情報を分かりやすく説明し、理解を深めていただくことで、医薬品の適正な使用を推進しています。また、お客様からいただいた貴重なご意見については、品質保証部門や製品設計部門、MR (Medical Representative: 医薬情報担当者) などの関係者に周知するとともに、製品の改良や情報提供サービスの改善などに活かしています。

これまで、お客様のご意見から改善につながった事例には、次のようなものがあります。

- 1 容器の両サイドにスリットを設けて残量が確認できるとともに、中央にディンプル (くぼみ) を設けることで、持ちやすく、軽い力で点眼できるようにしました。



ディンプルボトルはグッドデザイン賞を受賞しました。GOOD DESIGN

- 2 遮光袋の外側からでも点眼容器が識別しやすいように透明な袋にしました。



適正な臨床試験

研究倫理委員会

血液や臓器などのヒト生体材料を用いた非臨床試験をする際に提供者のプライバシー保護など倫理面での適切性および実施の妥当性など科学面での適切性について審査する社内機関として「研究倫理委員会」を設けています。「研究倫理委員会」は、役員を委員長に、研究部門および研究部門以外から選任した委員と社外の委員で構成しています。

治験審査委員会

医薬品、医療機器を製造販売するためには、厚生労働省からの承認が必要です。承認を得るためには、健康な方で安全性を確かめた後、患者さんに試用していただいて効果と安全性を確認する必要があります。これらの試験を治験と呼びますが、当社では、その実施に関して被験者の人権を尊重し、安全確保に留意し、かつ科学的厳正さをもって取り組んでいます。また、患者さんの不利益とならないよう科学的、倫理的側面から慎重に審査することが重要と考え、「治験審査委員会」を設けています。委員には、治験実施部門に関連しない社内外から医師、弁護士、看護師、薬剤師のほかさまざまな分野の有識者を選任しています。

動物実験における配慮

医薬品の開発においては法律に基づく制度として、動物実験による新規医薬品などの有効性と安全性の確認が義務付けられています。動物実験に替わる方法によって性能・機能・安全性の評価などが可能になることが望ましいと考えていますが、現状においてはより安全な代替技術が開発されていないため、動物実験を実施せざるを得ない状況にあります。

参天製薬では、動物の生命を尊び、不必要な苦痛を与えないという考えのもと、動物実験を実施する場合、動物福祉の観点から実験の必要性を「動物実験倫理委員会」で審査し、承認された実験のみが実施可能となるよう制度化しています。動物実験に関しては、「動物の愛護及び管理に関する法律」「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」「厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本方針」の趣旨に基づき、「動物実験倫理規程」「動物実験における倫理の原則」「動物の苦痛に関する基準」などの社内規程を設け研究施設で動物実験を計画・実施する際に、遵守しています。

動物を用いた実験は必要最小限に努めるとともに、動物の苦痛の軽減など動物福祉の観点においても最大限の配慮をすることが「実験の科学性と信頼性を高める」と考えています。研究者の一人ひとりが動物実験における倫理の原則を理解し、動物福祉に十分配慮して、動物実験の計画立案および実施をしています。また、社内での動物福祉の精神を徹底するためにも、毎年12月に、動物慰霊祭を行い供養しています。

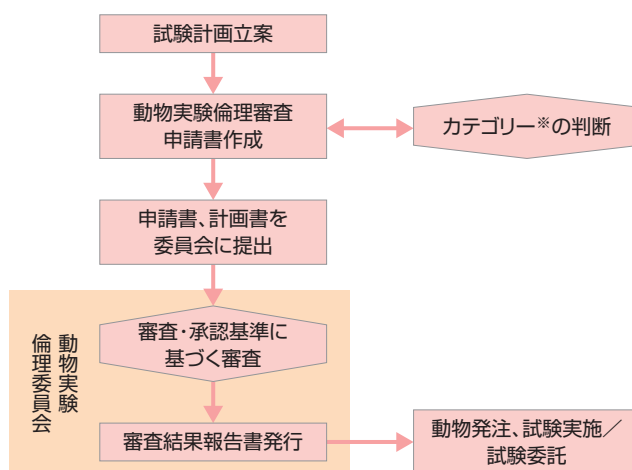
動物福祉の向上

動物の飼育環境を整備するとともに、従業員が、法律や動物の飼育状況、社会情勢などを常時把握できるように社内情報網を整備し、以下のような実験動物に対する福祉の意識向上を図っています。

- 動物の飼育ケージをNIH（米国国立衛生研究所）基準に準拠した飼育環境を保つ
- 動物の飼育を専門家に任せることで飼育環境の向上を図る
- 実験動物の感染症の発生防止に努める
- 3R^{*}の原則にさらに〔Responsibility（実験者の責任）〕を加えた4Rを実践
- 動物の取り扱いに関する教育・研修
- 動物福祉の専門家の意見を反映

^{*}Reduction（数の削減）
Replacement（代替法の開発）
Refinement（苦痛の軽減）

動物実験倫理審査フロー



^{*}Scientist Center for Animal Welfare (SCAW) の倫理カテゴリ（実験動物の苦痛分類）に基づき設定した参天製薬の分類

■ 正確で迅速な情報提供

医薬品・医療機器の適正な使用を推進

参天製薬は、医薬品・医療機器を製造販売した後、安全かつ適正にご使用いただくために注力しています。製造販売後の調査・試験を実施したり、医療機関、文献、学会などから安全性や有効性の情報をスピーディに収集し、評価しています。必要に応じて添付文書の「使用上の注意」を改訂するなどし、MR (Medical Representative: 医薬情報担当者) の活動などを通じて医療機関などへ情報を提供しています。

医薬品や医療機器に関する情報を社会に発信することも、当社にとって重要な役割であり、社会貢献の一つと考えています。そのため、当社ウェブサイトで目の病気とリウマチに関する情報などを配信しています。



ひとみ学園
<http://www.aki-net.co.jp/hitomi/>



リウマチ・暮らしのアドバイスなど
<http://www.santen.co.jp/ra/advice/top.shtml>

MRの教育研修の充実

参天製薬は、全国に約400名のMRを配置しています。MRは医師に対して、薬剤に関する情報だけでなく、患者さんへの具体的な説明方法、薬物療法の選択肢といった適切な提案を行い、総合的な情報提供を積極的に行います。

MRが果たしている当社の役割を重視し、薬剤に関する基礎知識、製品知識をはじめ、現場で役立つ応用知識、疾患・病態および最新治療法に至る専門教育を継続的に行うとともに、MR認定の取得を支援する研修を継続的に実施しています。その結果、2007年度の当社の合格率は91.5%で、業界全体の合格率77.5%を上回りました。



新人MR研修

■ 公正な競争と広告・宣伝

公正競争規約の遵守

参天製薬は透明で自由な競争を行うために、業界の自主規範である「公正競争規約」や当社が制定したプロモーションコードに基づいて、公正な流通の確保と普及促進活動を実施しています。

創造的で適正な広告・宣伝

参天製薬は社会や顧客に誤解を与えることなく、創造的で適正な広告・宣伝を行います。広告制作や宣伝活動に関しては、業界で定められたプロモーションコードや当社が制定したプロモーションコードを遵守し、取り組んでいます。



参天製薬医療用医薬品
プロモーションコード



参天製薬一般用医薬品
プロモーションコード



参天製薬医療機器業
プロモーションコード

株主の皆さまの理解を得ながら、ともに発展するよう努めます。

■ 株主の皆さまに対する正確な情報の開示

参天製薬の株主の皆さまは当社の成長にとって不可欠の存在です。当社は「企業行動規範」や「就業規則」の服務規律でインサイダー取引禁止を定めるとともに、防止を図っています。

株主や投資家の皆さまに対しては、一定期間ごとに作成する事業に関する報告・情報の公開のみならず、企業情報を各種報告書やホームページなどによって適時、適確、公正に開示する

ことで当社の事業活動に対して理解を得られるように努めています。

財務報告は、「アニュアルレポート」を発行するとともに、同様の情報をホームページにも掲載しています。



アニュアルレポート2008

■ 株主の皆さまとの利益の共有

参天製薬では事業活動によって蓄積した利益を、会社の存続と成長のために有効に活用し、株主の皆さまと共有することを「企業行動規範」に定めています。利益還元については、配当による株主還元と資本効率の向上の両方を考慮し、配当性向とROE（自己資本利益率）を掛け合わせた指標であるDOE（自己資本配当率）を配当指標に採用しており、中期経営計画では最

終年度である2010年度に5.0%とすることを目標としています。2007年度は、2008年6月開催の第96期定時株主総会において、1株当たりの期末配当金を40円とすることをご承認いただきました。この結果、中間配当と合わせた1株当たりの年間配当金は80円（前期比15円増）、DOEは5.4%となり、中期経営計画の目標であるDOE5.0%を前倒しで達成しました。

お取引先

お取引先と相互の繁栄に努めます。

■ お取引先の尊重

特約店、購買先、仕入先、臨床試験先などのお取引先は、参天製薬にとって大切なパートナーです。当社は、そのパートナーと互いに自己責任の原則に基づき、相互選択の自由を認め合い、相手を理解し、尊重し、強みを活用し合い、相互進化をめざしています。

また、お取引先との間でお互いを尊敬し合い、相互の繁栄をめざすことを「企業行動規範」に定め、引き渡された商品の不当な返品や受領拒否を禁じています。商品に明らかな不具合がある場合や、注文したものと異なっている場合には、返品または受領拒否の理由を付して返送します。

■ 購買先・仕入先の公正な選定

参天製薬は、購買先・仕入先の評価や選定に際して、品質やコスト、納期、サービス、経営上の信頼性などを総合的に評価し決定しています。製品やサービスの仕様や機能を十分に確認し、適切な製品・サービスを適正なコストで依頼部門に提供できるよう努めています。また、特定の購買先へ不公平な配慮を行わないよう競合見積もりによる評価を行い、最も良い購買先・仕

入先を選定するよう努めています。購買先・仕入先の評価結果や購買先・仕入先から出された価格やその他の情報については、他に漏らさないよう秘密情報として取り扱っています。また、購買先・仕入先との取引において、当社の製品やサービスを購入させることを条件とする「互惠取引」を「企業行動規範」で禁止しています。

「自律」と「ゆとり」と「豊かさ」の充実をめざしています。

■ 個人の尊重

差別のない職場づくり

参天製薬は、従業員一人ひとりの人権と個性を尊重し、国籍、人種、皮膚の色、宗教、性別、性的傾向、年齢、学歴、家系、出身地、身体的障がい、健康上の問題、地位などの理由によって、不当な差別的待遇を受けることのない職場環境づくりを図っています。こうした方針を、全従業員に周知させるために、「企業行動規範」に「差別の禁止」を掲げるとともに、入社時をはじめとした各種研修の中で人権啓発活動を行っています。さらに各事業部・本部のグループ、チーム、セクション単位で集合研修を実施して、働きやすい職場環境づくりを推進しています。

人権啓発推進室の活動

人権啓発活動をさらに推進するために専任部署として「人権啓発推進室」を設けています。「人権啓発推進室」は、役員や全従業員を対象とした人権研修および啓発活動の企画・実施、従業員からの人権問題に関する相談対応、人権問題発生時の迅速かつ適切な対応といった役割を担っています。

人権研修は、少人数で行うことが有効と考え2007年度から、「ハラスメント」をテーマに職場単位研修を事業部・本部ごとに実施しており、2008年度も引き続き、研修・啓発活動を行っています。また、イントラネットを活用した人権ニュースの発行やeラーニングによる人権研修を実施しています。



人権研修

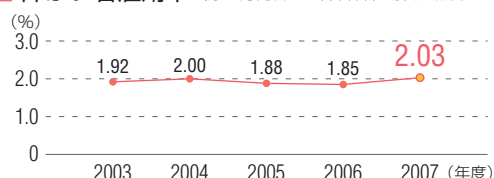
障がい者が働きやすい職場をめざして

障がい者が活き活きと働ける職場とするため、障がい者の能力開発と職場環境の整備を継続的に行っています。従業員は、事務系・企画系スタッフおよび製造業務などに従事しています。また、障がい者雇用を促進する目的で特例子会社の株式会社クルールを1997年に設立しています。

クルールでは、17名の障がい者が勤務しており、主として無塵衣や無菌衣などのクリーニング受託事業を行っています。

2008年9月に「障害者雇用優良事業所」として厚生労働大臣表彰を受けました。

■ 障がい者雇用率 (厚生労働省への障害者雇用状況報告に基づく)



次世代育成支援推進プロジェクト

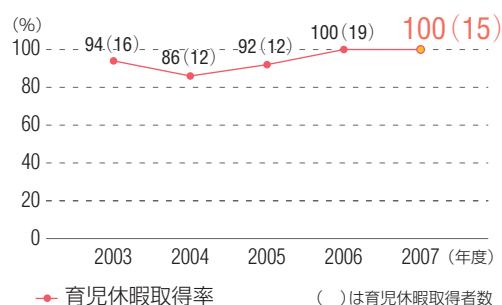
参天製薬では、次世代育成支援対策推進法が制定されたことを契機に、労使協働の「次世代育成支援推進プロジェクト」を立ち上げ、活動を推進しています。従業員が性別を問わず仕事と子育てを両立し、個人の能力が最大限に発揮できる職場形成をめざして、より良い制度構築や子育てに理解ある風土づくりに取り組んでいます。

制度として、最長2年の育児休業制度や、配偶者出産後の特別休暇、育児休業中のパソコンの貸し出しサービスなどを設けています。これら制度の活用に加え、男性社員による育児休業取得もあって、2007年9月に厚生労働省から「次世代育成認定事業所」として認定を受けました。

2007年度は、キャリア形成の機会を妨げることなく、仕事が継続できる多様な価値観に見合った働き方を選択できる制度として、小学校・保育所などへの送迎に対応できるよう、「育児短時間勤務制度」の検討を行いました。2008年度より導入を開始し、現在16名が活用しています。

また、2008年10月には、労使協働で両立支援活動に取り組み、多様な両立支援制度を整備し活用していることに対して、「均等・両立推進企業表彰」厚生労働大臣優良賞を受賞しました。

■ 産前産後休暇取得者の育児休暇取得率



教育・研修制度

参天製薬は、従業員の自主性を尊重しながら、潜在能力を早期に引き出すために、教育・研修制度の充実をめざしています。研修制度には、新入社員研修・新任マネージャー（管理職）研修などの階層別研修、スキル別選択研修、語学研修、パソコン研修などの課題別・選択制研修があります。加えて自己啓発支援プログラムも設けています。また、自律的なキャリア開発を促すための、自己申告制度、社内公募制度があります。2008年度は、環境の変化とニーズに呼応した内容にすべく見直しを行っています。

■ 安全・清潔かつ快適な職場環境の維持

労働安全衛生への取り組み

参天製薬は、労働安全衛生の全社的な活動の方向性と原則を示す「労働安全衛生基本方針」と「労働安全衛生行動指針」のもと、安全・清潔かつ快適な職場環境の維持と従業員の健康増進に努めています。

また、労働安全衛生マネジメントシステムを運用するとともに、安全衛生委員会の開催、職場パトロールの実施、安全衛生ニュースの発行、産業医による衛生講話などを、定期的に行い安全衛生の確保に努めています。

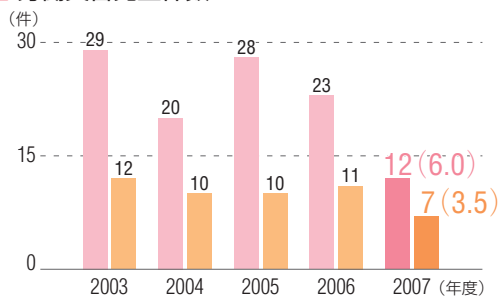


産業医による衛生講話



安全衛生ニュース

■ 労働災害発件数



■ 業務災害 ■ 通勤災害
()は1,000人当たりの発件数。派遣社員を含む

労働安全衛生基本方針

参天グループは、「安全衛生の確保は企業存立の基盤であり、経営の最重要課題の一つである」という認識のもと、快適な職場環境を維持し、職場で働く全ての人々の健康増進に努める。

労働安全衛生行動指針

- 1.労働安全衛生マネジメントシステム確立と維持
目標設定、継続的改善、監査による実効性向上
- 2.労働安全衛生関連法規制等の遵守
法規、条例、業界指針、自社自主基準の遵守
- 3.災害防止及び健康づくり
潜在的有害性の除去、軽減及び心身の健康増進
- 4.啓発と自律的行動
教育、学習、啓発による自律的活動の促進
- 5.労働安全衛生方針の情報公開
必要に応じて一般への公開

従業員の健康をサポート

従業員の健康をサポートする健康支援室を設置しています。スタッフが本社・能登工場・滋賀工場・奈良研究開発センターに常駐しているほか、全国のオフィスを訪問し、保健指導・衛生教育や従業員との面談、eラーニングによるメンタルヘルスに関する研修などを行っています。

また、従業員が病気や心の健康について悩んだ時に、相談できる健康相談窓口を社内に設置するとともに、従業員の家族も利用できる社外窓口を設けるなど、さまざまなサポートを行っています。

悩んだ時は…お気軽に相談ください

セクハラ相談	健康相談
社内窓口	
人事グループ 08- XXXXXXXXXX Email: XXXXXXXXXX@sanjinten.co.jp	健康支援室 06- XXXXXXXXXX
社外窓口 (受付時間: 24時間受付)	
職場のセクハラ相談-苦情を専任心理士が扱います。匿名でも相談ください。 従業員と派遣・派遣社員ご本人のみが利用できます。 受付時間 月・水・金 10:00~21:00 火・木 10:00~22:00 土・日 9:00~12:00	健康、医療、育児、介護相談、医療機関紹介等の場、電話によるワンヘルプデスクワンセンシング(予約制:平日9:00~17:00) 従業員・08・ご家族も利用できます。 (年中無休・24時間受付)
0120-XXXX-XXXX	0120-XXXX-XXXX



メンタルヘルスeラーニング画面

■ 公正な人事評価の実施

参天製薬は、全従業員に仕事を通じた成長を期待し、それを支援する仕組みを提供しています。

具体的には、個々人のチャレンジ意欲を引き出し、その成果に公正に報いるために、目標管理による人事評価制度を導入しています。会社として、組織ごとに、コアとなるスキルの要件を明確化し、育成・自己啓発の指標に基づく研修プログラムを実行しています。

■ 従業員の内訳

(名)

	正社員		契約社員	合計	
	経営基幹職	一般			
男	299	1,034	42	1,375	1,847
女	5	414	53	472	

■ 個人情報の保護

参天製薬は、事業活動を進めるうえで必要とする医療機関、株主の皆さま、お取引先、役員・従業員などの個人情報の保護は、重要な社会的責任であると考えています。当社では、「個人情報

保護方針」と個人情報保護に関するコンプライアンス・プログラムを策定し、役員・従業員への教育研修を通じて、周知徹底と適正な運用に努めています。

個人情報保護方針

参天製薬株式会社は、個人情報を適切に保護することを重要な社会的責任と考え、以下の方針を表明するとともに、当社役員及び従業員への教育活動等を通じた周知徹底を図ります。

1. 個人情報保護に関するコンプライアンス・プログラム

当社は、個人情報を適切に保護するためのコンプライアンス・プログラムを策定・運用し、継続的に見直し、改善します。

2. 個人情報の収集・利用及び提供

当社は、個人情報の収集・利用・提供に当たり、個人の権利を尊重した収集目的・利用及び提供範囲を明示すると共に、適切な収集・利用及び提供を行います。

3. 個人情報の正確性・安全性

当社は、個人情報の正確性及び安全性を確保するため、不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏えいなどの防止及び是正に関する合理的な措置を講じます。

4. 個人情報の開示、訂正、削除、利用停止

当社は、情報主体による個人情報の開示、訂正、削除、利用停止などに関する請求に対して、適切に対応します。

5. 法令等の遵守

当社は、個人情報の保護に関して適用される法令及び行政機関等が定めた規範、ガイドライン等を遵守します。

■ 知的財産権・職務発明の取り扱い

参天製薬では、知的財産権の重要性を認識し、研究・開発成果の権利化に努めるとともに、「特許法で定められた発明者の権利を保障しながら、発明を奨励する」という考えに基づき、従業員による職務発明に対する発明補償金制度を設けています。

この発明補償金は、「出願補償金」「登録補償金」「実績補償金

で構成され、出願補償金と登録補償金については一定額を支払っています。実績補償金については、海外も含めた対象製品の売上高に応じた支払いを実施し、増額や上限額の撤廃などを盛り込んだ規程を制定しています。



美しい地球を次世代に引き継ぐために

参天製薬は、「自然保護」と「環境保全活動」を重要な経営的課題のひとつとして位置づけ、さまざまな環境課題に組織として取り組むとともに、従業員一人ひとりの自律的活動を通じて、循環社会への実現に貢献していきます。

環境方針

環境方針に基づき環境保全活動を推進しています。

参天製薬は、環境基本方針と環境行動指針によって、環境および環境保全活動に関する基本的な考え方を明確化し、環境保全活動を推進しています。

環境基本方針

参天グループは、社名の由来である「天機に参与する」を基本理念に、地球環境問題の国際的な取り組みと呼応し、「美しい地球を次世代に引き継ぐ」ことに向け、グループ各企業が社会の一員であることを深く認識し、現在および将来にわたり企業活動のあらゆる面で、環境の質を保護・保存し、向上させる努力をたえず続ける。









グループ各企業および、これらの社内すべての環境マネジメント関連組織は、この「環境基本方針」を理解すると共に、これらを具現化するための環境方針を定め、これを達成するため環境マネジメントシステムを実施し維持しなければならない。

環境行動指針

1. 環境マネジメントシステムの確立と維持
環境目的・目標設定、持続的改善、環境監査による実効性向上
2. 環境関連法規制、条例の遵守
法規、条例、業界指針、自社自主基準の遵守
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル推進
省資源、省エネルギー、廃棄物削減、リサイクル率向上による環境負荷低減
4. 啓発と意識開発
全役員・従業員に周知、社員教育・啓発、意識開発による自主的活動の推進
5. 環境方針の情報公開
必要に応じて一般への公開

環境活動の結果をご報告します。

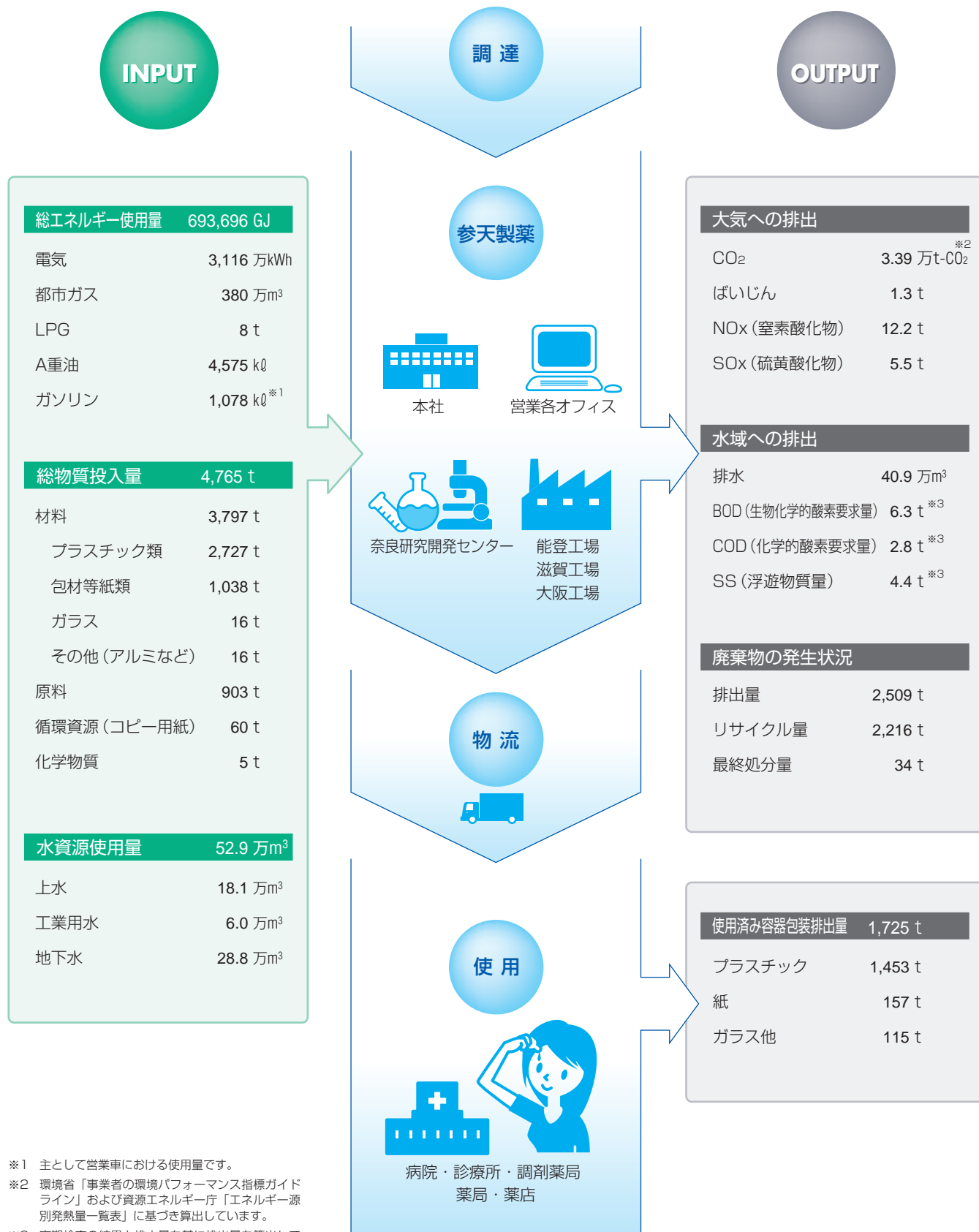
参天製薬は、環境行動指針に基づき環境活動に取り組むとともに、年度ごとの環境目標とその実績を評価することによって、環境保全活動の向上に努めています。

活動項目	2007年度目標	2007年度実績	自己評価	掲載ページ
1 環境マネジメントシステム	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメントシステムの実効性向上 環境安全衛生活動のグローバル推進 	<ul style="list-style-type: none"> 推進委員会体制の見直し 海外子会社サンテン・オイ(フィンランド)のマネジメントシステム構築支援 		P21
2 環境関連法規制の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 規制基準値の遵守 	<ul style="list-style-type: none"> 大気、水域への排出、振動・騒音についていずれも規制基準値内を維持 		P21 P27 P28
3 省エネルギー・地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量を34,340t-CO₂以下にする 	<ul style="list-style-type: none"> 33,891t-CO₂ 		P22
4 廃棄物削減	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物最終処分量を36.1t以下にする リサイクルの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 34.2t 廃棄製品のリサイクル化完了 		P23
5 化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> 適正管理の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 有機溶剤回収装置の性能確認、維持 		P24
6 グリーン調達・購入	<ul style="list-style-type: none"> グリーン調達の促進 グリーン購入率を85%以上にする 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン調達に関する評価方法の検討 73.6% 		P25
7 環境教育・啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育の実施 環境ニュースなどの発行 	<ul style="list-style-type: none"> eラーニング実施(2007年5月 受講率:98%) サイトごとに環境ニュース、ポスターによる啓発実施 		P25
8 環境社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> 地域の環境美化活動実施 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所周辺の清掃(本社地区・滋賀工場) 能登半島千里浜海岸清掃(能登工場) 富雄川コスモス育成運動参加(奈良研究開発センター)など 		P10

自己評価の基準  : 目標達成  : 目標未達成

事業活動に伴う環境負荷を把握しています。

参天製薬は、事業活動に伴うエネルギー使用量や物質投入量、水資源使用量、大気や水域への排出量、廃棄物の発生状況などについて、環境へ及ぼす影響の把握に努めるとともに、環境負荷の低減に向けて継続的に取り組んでいます。



美しい地球を次世代に引き継ぐために

※1 主として営業車における使用量です。

※2 環境省「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン」および資源エネルギー庁「エネルギー源別発熱量一覧表」に基づき算出しています。

※3 定期検査の結果と排水量を基に排出量を算出しています。

実効性の高いマネジメント体制を構築しています。

環境負荷を低減し、環境保全に貢献するために、生産部門ではISO14001の認証を取得し、非生産部門ではISO14001に準じた環境マネジメントシステムを構築・運用しています。

環境マネジメント体制

環境負荷の低減と地球環境保全に貢献するために、全社的なマネジメントシステムを構築しています。

各事業部長・本部長で構成するCSR委員会において、環境対策および関係法令遵守から環境に関わる社会貢献まで多岐にわたる当社の環境推進に関わる重要事項を決定しています。CSR委員会のもとに「環境安全推進委員会」があり、CSR委員会で決定した事項や方針などを、各部門の特性や実状に応じて部門が責任を持って適切に実践できるよう、各事業部・本部のGM(グループマネージャー)クラスで構成し、活動を推進しています。このように、環境への取り組みと事業活動とを一体として推進できる体制を整えています。

このほか、国内の各工場では、環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、適切な運用によって認証を維持・

継続しています。また、海外子会社サンテン・オイは環境と安全衛生を一体化させたマネジメントシステムを構築し、認証を取得しました。

ISO14001 認証取得状況

事業所名	取得年月
滋賀工場	1999年12月
大阪工場	2001年 6月
能登工場	2003年 1月
サンテン・オイ (海外子会社)	2008年 9月

環境関連法規制の遵守

適正な管理で法規制を守っています。

(各事業所の測定値は27ページ参照)

大気汚染物質の管理

大気汚染防止法に基づき、各事業所でボイラー設備類の運転状況を日常的に点検するとともに、大気中への排出ガスに含まれるNOx(窒素酸化物)、SOx(硫黄酸化物)、ばいじんの濃度を定期的に測定管理しています。すべての事業所において大気汚染に関する規制基準値以下であることを確認しています。

騒音・振動の管理

騒音規制法および振動規制法に基づき、敷地境界線上での騒音・振動を各事業所で定期的に測定し、すべての事業所において規制基準値以下であることを確認しています。また、日常的に事業所内を巡視し、異常な騒音・振動が発見された場合はただちに対策を講じ、規制基準値の遵守を図っています。

水質汚濁物質の管理

水質に関する法や条例などに基づき、排水処理設備の運転状況とpHや水温などを日常的に点検するとともに、定期的にBOD(生物化学的酸素要求量)、COD(化学的酸素要求量)などの水質汚濁物質を測定・管理しています。すべての事業所において排水に関する規制基準値以下であることを確認しています。

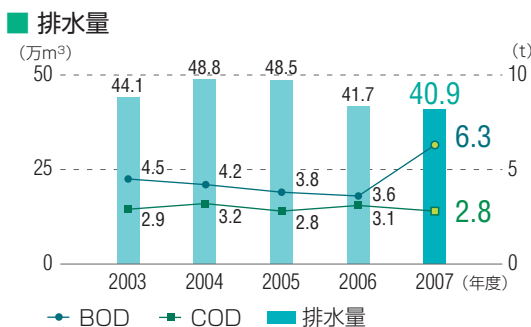
土壌汚染の調査

土壌汚染対策法では事業者に対して、都道府県などが土壌汚染の状況調査が必要と認めるときや、有害物質使用特定施設の使用廃止時などに、土壌の汚染状況を調査・報告するよう義務付けています。当社の事業所において、2007年度は該当する事項がなかったため、調査は実施していません。

PCB(ポリ塩化ビフェニル)の対応

本社地区においてPCBを含有する使用済みの安定器を専用の保管室で適切に保管しています。

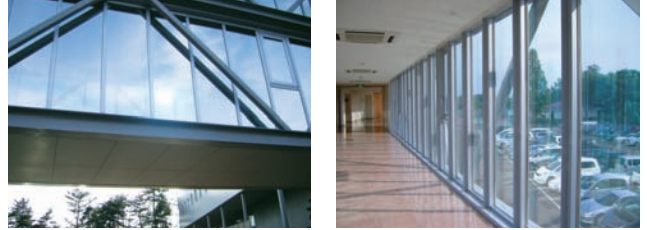
処理指定事業者の2007年度計画において、安定器類の処理予定がなかったため、継続保管しています。処理指定事業者の受入体制が整い次第、処理を依頼する予定です。



地球温暖化防止に関する取り組みを展開しています。

参天製薬は、2007年度までの日本製薬工業協会目標（2010年度のCO₂排出量を1990年度レベル以下にする）に準じた中期CO₂削減目標を設定し、地球温暖化防止に関する取り組みを実施してきました。2008年4月、日本製薬工業協会の目標が見直されたことに伴い、当社中期目標について見直しを行っています。

CO ₂ 排出量	
2007年度の目標	34,300t-CO ₂ 以下
2007年度の実績	33,891t-CO ₂



窓ガラスに貼られた遮光フィルム（能登工場）

2007年度の取り組み

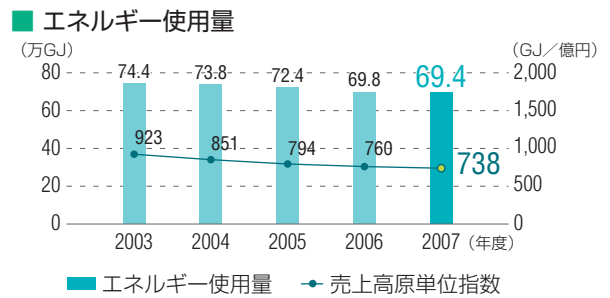
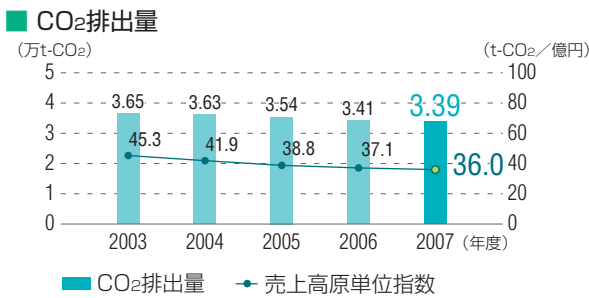
当社全体のCO₂排出量の4割弱を占める能登工場では、空調設備や生産設備などの電動機器を効率の良いインバータタイプへ更新したほか、窓ガラスに遮光フィルムを貼るなどの対策によって、2006年度に比べCO₂排出量を329t-CO₂削減しました。滋賀工場では、照明設備を省エネ型インバータ仕様に変更したほか電灯の消灯や空調温度設定の遵守など日常的な省エネ活動に継続して取り組みましたが、生産量の増加などもありCO₂排出量は、2006年度に比べ134t-CO₂増加しました。大阪工場では、冷蔵庫の配置数の見直し・削減、蛍光灯の間引きや人感センサーの設置、コージェネおよびボイラー設備運転状況の最適化などの省エネ対策を実施しました。奈良研究開発センターでは、増築に伴い、電力使用量が若干増加する要因がありましたが、空調機の設定温度の適正改善などによる省

エネ対策により、CO₂排出量は、2006年度と変わらずほぼ横ばいとなりました。

全社的には、環境省の呼びかけで実施される「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」に合わせて6月の1カ月間、ネオンの消灯時間を1日1時間繰り上げるとともに、夏至の3日間は、同施設の全消灯を行いました。また、2002年7月から導入している、ネクタイなどを外したクールビズ・ウォームビズによって、冷房時は27℃以上、暖房時は20℃以下に空調温度を設定・遵守する、省エネ活動に継続して取り組んでいます。

これらの取り組みの結果、CO₂排出量は33,891t-CO₂となり、目標に対し約400t-CO₂削減できました。2006年度に比べると、CO₂排出量約160t-CO₂（0.5%）、エネルギー量に置き換えると、4,078GJ（0.6%）の削減となります。

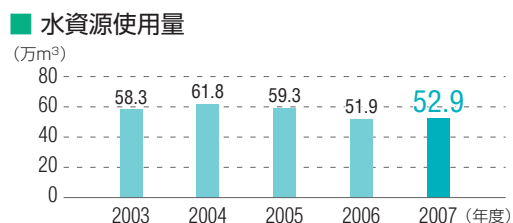
美しい地球を次世代に引き継ぐために



省資源

水資源の有効活用に取り組んでいます。

参天製薬は、貴重な水資源を有効活用するため、各事業場での空調用・生産用冷却水の再利用や生産工程の洗浄水削減に継続して取り組んでいます。2007年度は、生産数量の増加に伴い能登工場の使用量が1.7万m³増加したことなどにより、当社全体では52.9万m³となり2006年度に比べ約1万m³（2.1%）増加しました。



廃棄物の削減に取り組んでいます。

参天製薬は、2004年度に定めた「リサイクル方針」に沿って、3R（リデュース、リユース、リサイクル）に積極的に取り組み、ゼロエミッションの達成と、資源の有効活用を推進しています。

廃棄物最終処分量	
2007年度の目標	36.1t 以下
2007年度の実績	34.2t

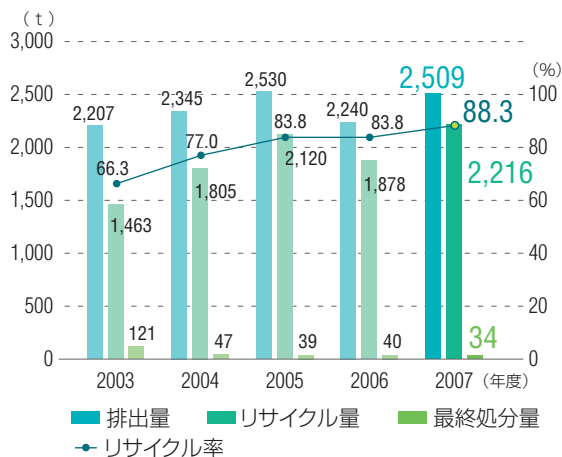
2007年度の取り組み

2007年度の廃棄物排出量は、生産設備の試運転や生産量の増加などに伴い2,509tとなり2006年度に比べると12.0%増えました。一方、能登工場での廃棄製品のリサイクル化や滋賀工場での廃プラスチックのリサイクル化などにより、リサイクル量が18%増えるとともにリサイクル率も4.5%向上し、その結果、最終処分量は34.2tとなり、目標を達成しました。

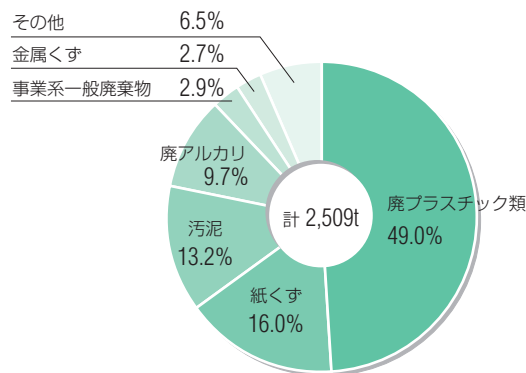
また、奈良研究開発センターでは、当社のゼロエミッションの達成に大きく影響を与える排水汚泥のリサイクル化について検討しましたが、排水汚泥に現在の技術ではリサイクル化できない化学物質が含まれる場合もあり、リサイクル化を断念しました。なお、排水汚泥のリサイクル化はできませんでしたが、当社基準のゼロエミッションは達成しています。

今後は、より資源の有効活用となるリサイクルの質の向上を図るとともに、必要なものを必要な分だけ調達することや、廃棄物になり得るものの流入を抑制するなどの廃棄物発生を抑制するリデュースや、繰り返し使用するリユースについて、具体的な幅広い対策を検討していきたいと考えています。

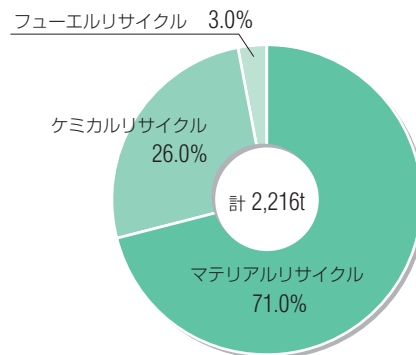
■ 廃棄物の処理状況



■ 廃棄物の内訳 (2007年度)



■ リサイクルの内訳 (2007年度)



リサイクル方針

リサイクル不可品以外の廃棄物はすべてリサイクルを行う

(注) リサイクル不可品は、感染性廃棄物、廃化学物質など、法規制などでリサイクル不可とされている廃棄物およびリサイクル技術が確立していない廃棄物を指します。

ゼロエミッションの定義

リサイクル不可品を除く最終処分量を1%以下にすること

$$\text{最終処分量} = \frac{\text{リサイクル可能品の最終処分量}}{\text{リサイクル可能品の廃棄物排出量}} \times 100$$

ゼロエミッション対象事業所：本社地区・能登工場・滋賀工場・奈良研究開発センター

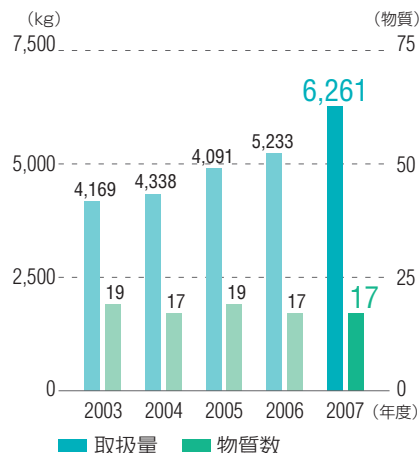
化学物質の適正な使用を管理しています。

2007年度の取り組み

参天製薬は、化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）や労働安全衛生法などに基づく適正管理に努めています。

化学物質管理システムによって、化学物質の保管量と保管場所を一元的に把握するとともに、適正な購入および適正な使用の徹底を通じて、安全性の高い管理に努めています。このほか、大気への排出を抑制するために有機溶剤回収装置を設置し、定期点検や日常点検などにより性能を維持しています。PRTR法の第一種指定化学物質（354物質）の中で、2007年度の取扱量が年間1kg以上の物質は、17物質ありました。この中でアセトニトリルとクロロホルムについては、1事業所での取扱量において年間1t以上の取り扱いがあり、PRTR法に基づき排出量および移動量の届出を行いました。

年間1kg以上の取り扱いがあった物質数と取扱量

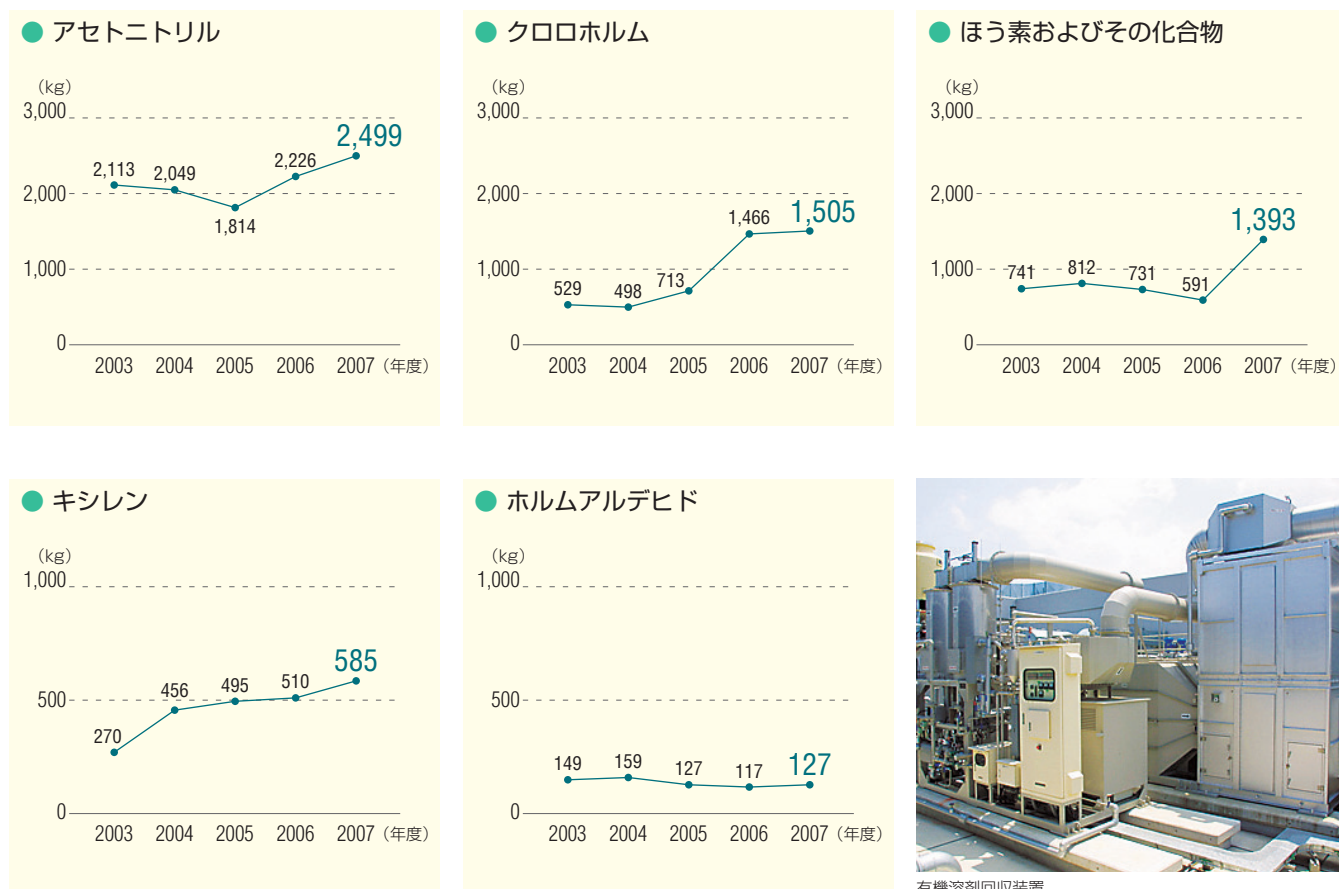


PRTR法対象化学物質の年間排出量および移動量

(単位: kg)

化学物質番号	名称	排出量				移動量	
		大気への排出	公共用水域への排出	事業所における土壌への排出	事業所における埋立処分	下水道への移動	事業所外への移動
12	アセトニトリル	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	1,400
95	クロロホルム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,500

年間1kg以上の取り扱いがあった物質名と取扱量



有機溶剤回収装置

美しい地球を次世代に引き継ぐために

環境に配慮した製品の調達・購入を推進しています。

グリーン調達の推進

参天製薬は、環境負荷の少ない製品の開発・供給を通じて社会全体の環境負荷の低減に貢献したいと考えています。この考えに基づき、製品の原材料や製造に必要な各種資材の調達に関する方針や考え方をまとめた当社グリーン調達ガイドラインを作成しています。環境に配慮して物品を選択するグリーン調達の推進には、取引先のご理解・ご協力を得ることが不可欠であることから、今後は、グリーン調達ガイドラインをもとに、調達先のご協力を得ながら共同して取り組んでいきたいと考えています。

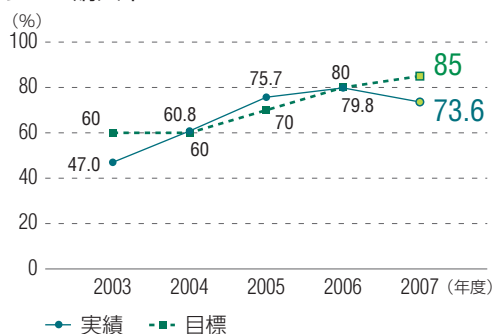
グリーン購入の推進

参天製薬では、電子購買システムで購入するコピー用紙、ファイルなどの事務用品や生活用品などを対象に環境に配慮した製品の購入を推進しています。

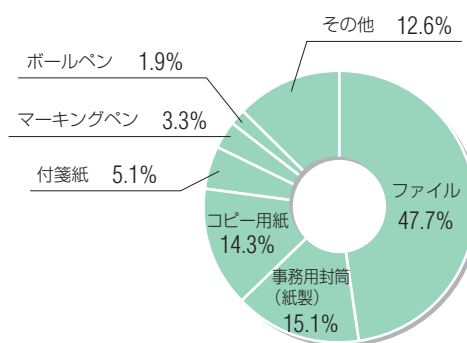
2007年度は、「グリーン購入率85%以上」を目標に取り組みましたが、デザインや使いやすさなどのニーズを優先したことにより、環境配慮製品が購入されなかったことや、2008年1月の古紙含有率偽装問題などの影響もあり、各部門のグリーン購入率は60%～90%、全体では73.6%にとどまり、目標の85%を下回りました。

今後は、ニーズ優先ではなく、環境に配慮した製品の優先購入を啓発し、グリーン購入率の向上に取り組んでいきます。

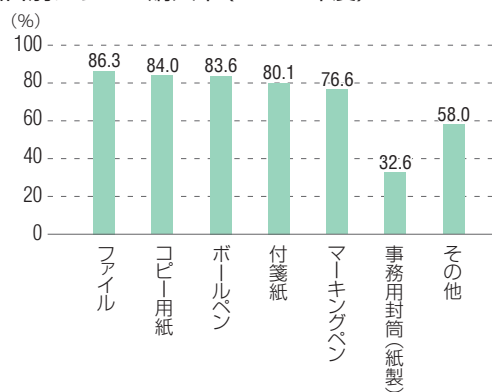
■ グリーン購入率



■ 品目別購入量構成比(2007年度)



■ 品目別グリーン購入率(2007年度)



環境教育・啓発活動

従業員の環境意識の向上に努めています。

環境活動を継続的に、より効果的に推進するためには、従業員一人ひとりの環境に対する意識を高めることが不可欠です。参天製薬は、環境月間や省エネ月間などの機会に、環境に関する情報提供や啓発活動を行っています。

2007年度は「環境問題に関する世の中の流れ」と「参天製薬の取り組み」の2部構成でeラーニング研修を実施しました。

また、奈良研究開発センターや滋賀工場では、従業員はもちろん、その家族からも環境活動のポスターや標語の募集などを行い、環境意識の向上に努めています。



各環境ニュース

環境活動に関わるコストと効果を把握しています。

環境会計の把握

参天製薬では、より効率的な環境経営の実践をめざすために、参天製薬単体の環境保全の取り組みに関わるコスト（投資額と費用）およびその効果（経済効果と環境保全効果）を把握するとともに、環境負荷の低減に努めています。

2007年度のおもな取り組みとしては、排水汚泥の削減を目的として、能登工場に脱水設備を導入しました。これまでは、水分が90%以上含まれる汚泥をリサイクルしていましたが、脱水・乾燥の後、固形化した汚泥をリサイクルするようにしました。なお、脱水後の水分は、適切に処理を行って排水として



排水脱水設備（能登工場）

て排出しています。同様の目的で、滋賀工場にも汚泥回収装置を導入しました。

また、各工場・研究所において空調用冷凍機・冷却装置等のインバータ化を進めるとともに、能登工場では壁面がガラス張りとなっている建物に遮光・断熱フィルムの貼り付け施工を行い、空調用エネルギーの削減を図っています。

主要な事項

対象期間	2007年4月1日～2008年3月31日
集計範囲	参天製薬単体の環境保全に関わるコストおよびその効果
集計方法	環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参照

環境保全コスト

分類	おもな取り組みの内容	投資額（百万円）	費用額（百万円）
1. 事業エリア内コスト		34	242
内訳	(1) 公害防止コスト	0	97
	(2) 地球環境保全コスト	24	74
	(3) 資源循環コスト	10	71
2. 上・下流コスト	容器包装再商品化委託	—	27
3. 管理活動コスト	ISO認証維持、事業所内の緑化・美化、環境担当者の人件費、水質・排ガス測定等、環境教育費	7	133
4. 研究開発コスト	—	—	—
5. 社会活動コスト	事業所周辺清掃、千里浜海岸清掃、奈良県富雄川クリーンキャンペーン活動	—	0
6. 環境損傷コスト	—	—	—
合計		41	402

（注）目的が明らかに環境保全に関わるものと判断できる場合のみ計上しています。

- ・費用額には減価償却費を含めており、財務会計と同一の減価償却方法を採用し計上しています。
- ・2007年度の投資については、投資額と費用額の両方に計上しています。
- ・環境管理担当部署の担当者および環境マネジメントシステムの認証維持・運用に関わる事務局担当者の人件費を管理活動コストに計上しています。
- ・—は取り組みや費用などが発生していないもので、少額の場合は0としています。

環境保全効果

効果の内容	指標の分類	環境負荷削減量 (2006年度比)	環境負荷量 (2007年度)	
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入量 [GJ]	4,078	693,696	
	内訳	電気 [万kWh]	27	3,116
		都市ガス [万m ³]	3	380
		LPG [t]	0	8
		A重油 [kℓ]	35	4,575
		ガソリン [kℓ]	-43	1,078
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	水の投入量 [万m ³]	-1.1	52.9	
	CO ₂ 排出量 [万t-CO ₂]	0.02	3.39	
	ばいじん排出量 [t]	0.02	1.29	
	NOx (窒素酸化物) 排出量 [t]	0.51	12.16	
	SOx (硫黄酸化物) 排出量 [t]	-1.27	5.51	
	総排水量 [万m ³]	0.8	40.9	
	BOD (生物化学的酸素要求量) 排出量 [t]	-2.70	6.33	
	COD (化学的酸素要求量) 排出量 [t]	0.23	2.85	
	廃棄物総排出量 [t]	-269	2,509	
	廃棄物最終処分量 [t]	5	34	

（注）環境保全効果は、前年度との単純比較により環境負荷削減量を算出しています。

環境保全対策に伴う経済効果

効果の内容	金額（百万円）
収益	47
費用削減	31
	0

（注）環境保全対策に伴う経済効果は、確実な根拠に基づいて算出される実質的效果のみを計上しています。



サイトデータ

参天製薬では、事業所ごとに環境活動や地域との交流活動を行っています。各事業所においても、法規制基準に基づき適切に管理・把握しています。

本社地区



所在地：大阪府東淀川区下新庄
生産品目：眼軟膏、抗リウマチ薬
従業員数：約750名

本社地区には、本社、大阪工場および製剤開発センターがあります。大阪工場は、戦前の1935年に開設され、当時は目薬のほか、解熱薬、外傷薬なども製造していました。空襲で本社が焼失したため、終戦の年(1945年)に本社をこの地に移転し、戦後60年の成長の歴史を、本社とともに歩んできました。製剤開発センターは、製剤研究を主たる業務として、新薬開発および既存品改良など広範に活動しています。本社地区は、住宅地に隣接しているため、騒音・振動をはじめとして近隣への環境影響には特に気をつけています。

能登工場



所在地：石川県羽咋郡宝達志水町敷波
生産品目：医療用点眼薬と一般用点眼薬
従業員数：約320名

能登工場は、参天製薬の主力工場として販売数量の80%強を製造しており、生産量で世界一の規模を誇っています。最新のファクトリーオートメーション設備を備え、環境管理、安全衛生や化学物質管理など、お客様や働く人々に対してさまざまな角度から配慮をしています。

滋賀工場



所在地：滋賀県犬上郡多賀町大字四手字諏訪
生産品目：医療用点眼薬
従業員数：約120名

滋賀工場は1996年に竣工した、参天製薬では最も新しい工場です。甲子園球場の3倍という広々とした敷地に、ガラス張りの明るい建物が映えます。ISO14001環境マネジメントシステムへの取り組みは参天製薬の工場のなかで最も早く、1999年に認証を取得しました。敷地内には知的障がい者が働く特例子会社の株式会社クレールがあります。

環境データ

	項目	規制基準値	測定値
大気 ※1	ばいじん(g/Nm ³)	0.05	0.004
	NOx(ppm)	150	44
	SOx(ppm)k値17.5	1.69	測定対象外
水質 ※2	pH	5.0~9.0	6.4~7.4
	BOD(mg/l)	600	200.0
	COD(mg/l)	600	16.0
	SS(mg/l)	600	35.0
騒音 ※3	朝 (dB)	60	55
	昼間 (dB)	65	56
	夕 (dB)	60	54
	夜間 (dB)	55	55
振動 ※3	昼間 (dB)	65	36
	夜間 (dB)	60	32

※1 大気汚染防止法に基づいています。
※2 大阪市下水道条例に基づいています。
※3 大阪府生活環境の保全に関する条例に基づいています。

環境データ

	項目	規制基準値	測定値
大気	ばいじん(g/Nm ³)	0.3	0.005
	NOx(ppm)	150	37
	SOx(ppm)k値17.5	4.19	0.06
水質	pH	5.8~8.6	7.5~7.9
	BOD(mg/l)	60	9.6
	COD(mg/l)	60	5.3
	SS(mg/l)	60	4.8
騒音	朝 (dB)	60	47
	昼間 (dB)	65	48
	夕 (dB)	60	46
	夜間 (dB)	50	47
振動	昼間 (dB)	65	46
	夜間 (dB)	60	<30

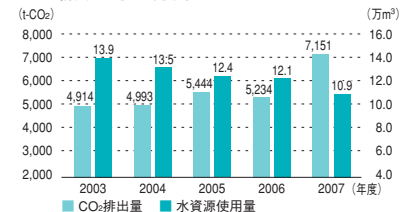
(注) 規制基準値は宝達志水町公害防止協定に基づいています。

環境データ

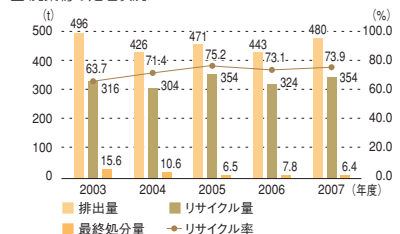
	項目	規制基準値	測定値
大気 ※1	ばいじん(g/Nm ³)	0.2	0.025
	NOx(ppm)	180	100
	SOx(ppm)k値17.5	1.59	0.06
水質 ※2	pH	5.0~9.0	7.3~8.1
	BOD(mg/l)	600	220.0
	COD(mg/l)	600	61.0
	SS(mg/l)	600	32.3
騒音 ※2 ※3	朝 (dB)	50	52
	昼間 (dB)	55	49
	夕 (dB)	50	56
	夜間 (dB)	45	49
振動 ※2	昼間 (dB)	70	26
	夜間 (dB)	65	<25

※1 滋賀県公害防止条例に基づいています。
※2 多賀町公害防止及び環境保全に関する協定に基づいています。
※3 測定値は虫の鳴き声や工場周辺の音などが影響しており、工場だけに起因する騒音は把握できませんでした。

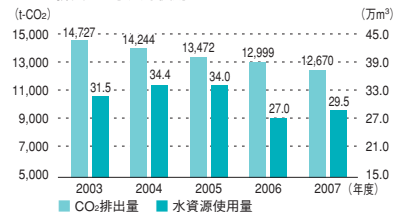
CO₂排出量と水資源使用量



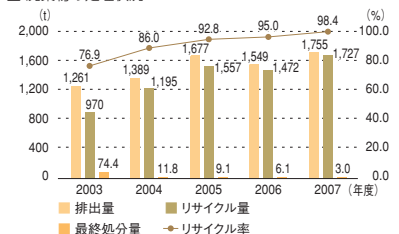
廃棄物の処理状況



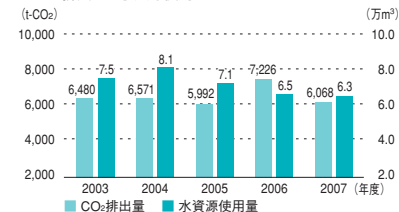
CO₂排出量と水資源使用量



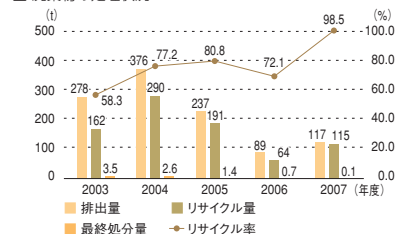
廃棄物の処理状況



CO₂排出量と水資源使用量



廃棄物の処理状況



奈良研究開発センター



所在地：奈良県生駒市高山町
 研究内容：眼科とリウマチ/骨・関節疾患領域の創薬および研究開発
 従業員数：約200名

奈良研究開発センターは1996年に開設しました。2002年には、施設を拡充して医薬品開発に必要な研究機能を統合し、参天製薬の研究開発機関の中核としての陣容を整えました。2008年11月に竣工予定で、研究開発機能を集約するため第3期工事を進めています。

サンテン・オイ(フィンランド)



所在地：Niittyhaankatu 20,P.O.Box 33,FIN-33721 Tampere Finland
 事業内容：医薬品の臨床開発・製造・販売・受託製造
 出資比率：100%

サンテン・オイは、欧州にある参天製薬の中心拠点です。環境および労働安全衛生生活に関しては、参天製薬と共通の活動項目に基づく目標を設定し計画的に活動に取り組んでいます。2008年9月に環境と労働安全衛生のマネジメントシステム(ISO 14001とOHSAS 18001)の認証を取得しました。

サンテン・インク(アメリカ)



所在地：555 Gateway Drive,Napa,California 94558,USA
 事業内容：医薬品の臨床開発
 出資比率：100%

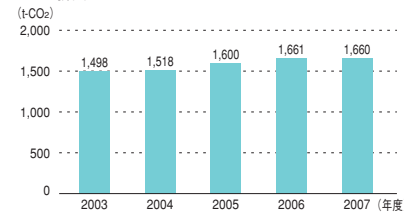
サンテン・インクは、環境・安全衛生活動に関する参天グループ共通の活動を展開するにあたり、CO₂排出量や廃棄物排出量および労働災害の発生件数などの実績について情報収集を行っています。

環境データ

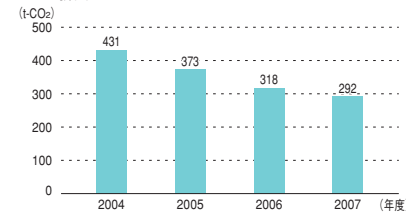
	項目	規制基準値	測定値
大気	ばいじん(g/Nm ³)	0.10	0.001
	NOx(ppm)	150	30
	SOx(ppm)k値17.5	12.76	測定対象外
水質	pH	5.0~9.0	6.9~7.7
	BOD(mg/l)	1500	86.5
	SS(mg/l)	1500	51.1
騒音	朝 (dB)	60	40
	昼間 (dB)	65	47
	夕 (dB)	60	40
	夜間 (dB)	50	39
振動	昼間 (dB)	65	<30
	夜間 (dB)	60	<30

(注) 基準値は生駒市公害防止協定に基づいています。

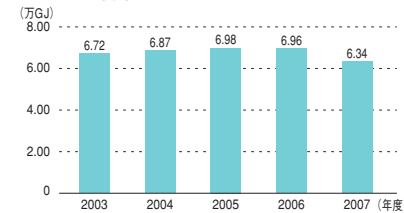
■ CO₂排出量



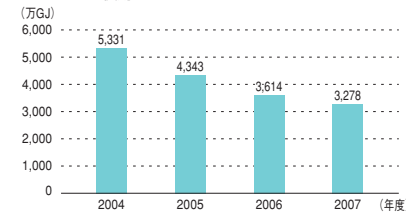
■ CO₂排出量



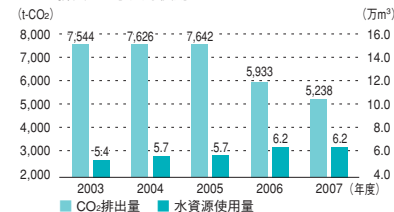
■ エネルギー使用量



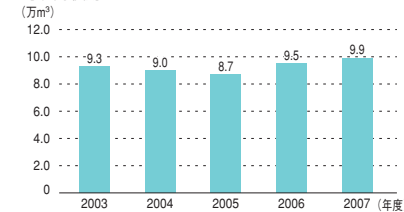
■ エネルギー使用量



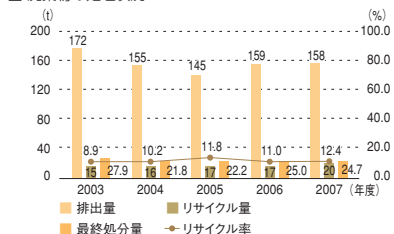
■ CO₂排出量と水資源使用量



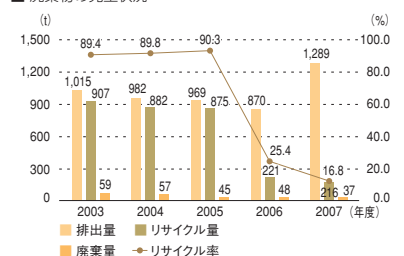
■ 水資源使用量



■ 廃棄物の処理状況



■ 廃棄物の発生状況



美しい地球を次世代に引き継ぐために

参天製薬について

■ 会社概要

社名	参天製薬株式会社
創業	1890年(明治23年)
資本金	6,418百万円(2008年3月31日現在)
本社所在地	〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄3丁目9番19号
代表取締役会長	森田 隆和
代表取締役社長兼CEO	黒川 明
事業内容	医薬品および医療機器の研究開発・製造・販売
決算期	3月31日
従業員数	2,483名(単体1,847名)
事業所	
製造拠点	能登工場／滋賀工場／大阪工場
研究所	奈良研究開発センター
主な営業拠点	仙台／東京／埼玉／名古屋／大阪／広島／福岡
国内子会社	株式会社クレール
海外子会社	サンテン・ホールディングス・ユーエス・インク／ サンテン・インク／アドバンスド・ビジョン・サイエンス・インク／サンテン・オイ／サンテンファーマ・ エービー／サンテン・ゲーエムバーハー／台湾参天製薬股份有限公司／韓国参天製薬株式会社／参天製薬(中国)有限公司

■ 事業分野とおもな製品

売上高の約80%を占める医療用眼科薬は、国内では幅広い治療領域の品揃えにより、マーケットリーダーの地位を確保しています。海外では、米国・欧州・アジアに、「クラビット点眼液」(販売名は地域によって異なる)などの医療用眼科薬を販売しています。医療用眼科薬に次ぐ製品の柱は抗リウマチ薬です。関節リウマチ薬のスタンダード薬として、疾患修飾性抗リウマチ薬市場で第1位のシェアを獲得しています。一般用医薬品は売上高の約5%となっています。

● 医療用医薬品

[医療用眼科薬]

- クラビット点眼液(合成抗菌点眼剤)
- タリビッド点眼液(合成抗菌点眼剤)
- ヒアレイン(角膜疾患治療剤)
- レスキュラ点眼液(緑内障治療剤)
- デタントール点眼液(緑内障治療剤)
- チモプトールXE(緑内障治療剤)
- チモプトール(緑内障治療剤)
- リボスチン点眼液(抗アレルギー点眼剤)



[抗リウマチ薬]

- リマチル錠／アザルフィジンEN錠／
メトレート錠2mg



● 一般用医薬品

- サンテFXネオ／サンテ40V／サンテ40／
サンテメディカル10



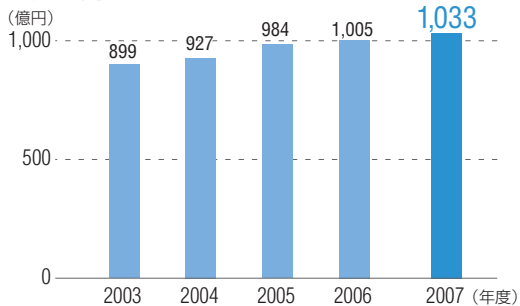
● 医療機器

- 眼内レンズ(白内障手術関連)

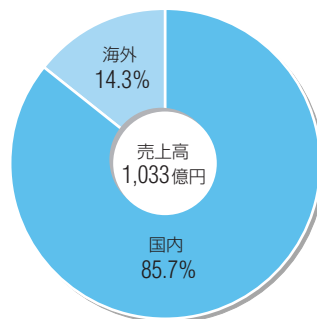
■ 参天製薬のあゆみ



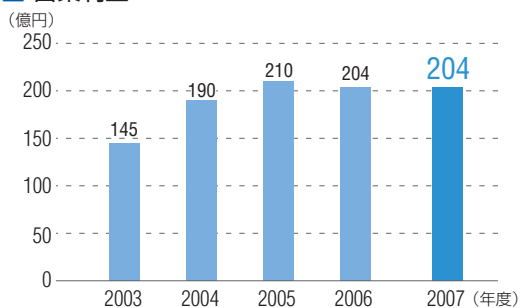
■ 売上高



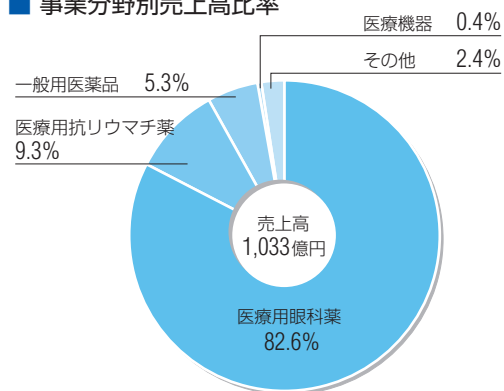
■ 国内・海外売上高比率



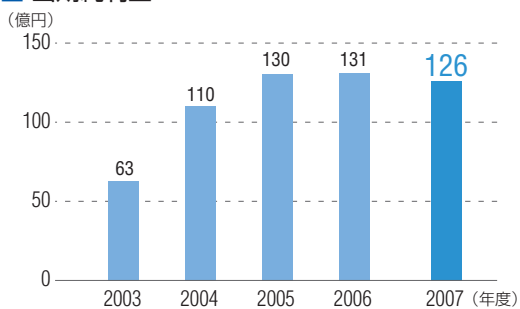
■ 営業利益



■ 事業分野別売上高比率



■ 当期純利益





参天製薬株式会社

連絡先

コーポレート・ソーシャル・リスポンシビリティグループ

〒533-8651 大阪市東淀川区下新庄三丁目9番19号

TEL.06-6321-9977 FAX.06-6321-7256

<http://www.santen.co.jp>



アロマフリー型大豆インキを使用しています。